

邦銀の外貨資金調達力の強化

米ドルの基軸通貨としての優位性が続く中で、1. マクロ経済環境の改善、2. 政策対応、3. 邦銀の自助努力の三本柱により、特に米ドル調達コストを低減させることで邦銀の国際競争力を強化することが求められる。

1. マクロ経済環境の改善

- 平時は日本銀行の無制限通貨スワップ協定が発動されず、特に米ドル調達コストの低減が課題。
- 低金利環境下では日本円の魅力が低くなり、邦銀が米銀から米ドルを調達する際の交渉力が低下。
- 日本円の魅力向上のため、利上げできるマクロ経済環境の醸成が必要。

2. 政策対応

- 世界有数の外貨準備を活用できていないことが課題。
- 政府は、外為特会を活用し、海外展開企業に外貨貸付を行うJBICに対して、補完的な外貨貸付を行ってきた。
- JBICは邦銀と連携した協調融資も行っている。
- 政府がJBICを通じた米ドル貸付を行うことで、邦銀の米ドル調達コストを低減させることも一案。

3. 邦銀の自助努力

- 邦銀が平時に短期資金を調達する際、市場調達となる米ドルの調達コスト上昇への対応が課題。
- 米ドル建てCD/CPの発行、米ドル建て預金の確保等、短期の米ドル資金の調達先を分散・多様化させる等自助努力を行うことで、邦銀の国際競争力を高めることが重要。